

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所こだま		
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		～ 令和7年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で介入できること	カンファレンスやグループ支援に保育士とセラピスト等の専門職が入り介入している。	より多角的な職種での介入を通して児の全体発達をより詳細に捉えられるようにする。
2	親子で通所できる事業所であること。	親子通所を通してお子さんの支援だけでなく、保護者に対して育児に関する相談や関わり方、ホームプログラム立案等の支援を行っている。	
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援スペースの確保の難しさがある。	建物自体のスペースを広げることができない。	常に整理整頓を図ることで支援スペースの確保を行っている。 必要に応じて学校のスペースを利用して支援を行っている。
2	サービスの提供に限られる。	一人あたりの業務負担が大きい。	随時、業務改善を行っている。
3			